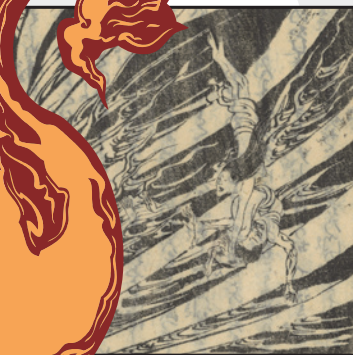


Connect



第一の地獄に、またちて八となす。
 三は衆合、四は叫喚、五は大叫喚、六は
 熱、七は大焦熱、八は無間なり。こ
 なかの罪人、たがひにつねに害心
 けり。おのおの鉄の爪をもつて、
 ひに掴み裂く。



大焦熱地獄といふは、焦熱の下にあり。
 大きな鉄の串をもつて下よりこれを貫き、
 頭を徹して出し、反覆してこれを炙り、か
 の有情をして諸根・毛孔、および口のなか
 にことごとくみな炎起らしむ。



ZIGOKU

ジゴク

地獄の黙示録



地獄の世界観である地獄と極楽浄土。今や幼少期の水木しげる氏のように「悪いことをしたら地獄に墮ちる」と言われた世代は少ないかもしれない。それでも「地獄」というキーワードをSNSで検索すると、最悪な状況の形容詞として若い世代が多く使っている。逆に現代で「極楽、極楽」なんて使っているのは目玉おやじくらいだろう。日本で古来より語り継がれ、絵画などにも大きな影響を与えてきた「地獄」は想像を遥かに超えてグロテスクで恐ろしい。怖いもの見たさや、死後の世界は今も昔も人々の興味を惹きつける。そんな「地獄」の世界を少しだけ見てみよう。

地獄の

水木しげるの原風景

巻頭に使用させていただいた迫力ある地獄絵は、漫画家・水木しげる氏のイラストである。（もちろん許可を取って水木プロダクションよりお借りしたものだ。）水木氏は幼少期から地獄に魅了された一人。2013年に発表した絵本『水木少年とのんのんばあ地獄めぐり』では、ポップで鮮やかな色使いとは裏腹に、恐ろしく痛々しい八大地獄の地獄絵が見事に描かれている。

水木家のお手伝いに来ていた“のんのんばあ”は、水木少年をしばしば正福寺（鳥取県境港市）というお寺へ連れて行った。そのお寺の本堂には地獄絵と極楽絵があり、水木氏はその絵を眺めて楽しんでた。のんのんばあは水木氏に「悪いことをした人が行くとこだけん」と、地獄の恐ろしさを伝え、別の世界の存在を知り、妖怪の世界を探求するきっかけになったという。



B3 ▼ 衆合地獄 しゅうごう

殺生・偷盗せつしょう ちゆうとうの他、淫らな行い（邪淫 - よこしまな性の交わり）を犯した人が墮ちる世界。鉄の臼に入れられ、鉄の杵で餅つきのようにつかれる。他には、刃物の葉を持つ木の上に美しい女性がいて誘惑してくる。

B1 ▼ 等活地獄 とうかつ

人間や動物などの生き物を殺した（殺生せつしょう）人が墮ちる。地獄の鬼（獄卒ごくそつ）の鉄棒や鉄杖で体を打ち砕かれ、鋭利な刀で切り分けられる。さらに、罪人の指先は鉄の爪となり、共に骨になるまで戦わなければならない。



屎泥処しでいしよ

等活地獄の周りにある小地獄のひとつ。小地獄は別所とも呼ばれる。熱いうんちの海でもがき苦しみ、硬いくちばしを持った虫に骨の髄まで食われる。鹿や鳥を殺した人が墮ちる。

平安時代の十世紀、比叡山の僧侶である源信げんしん和尚わしやう（942 - 1017）は『往生要集じやうじやうしやうしゅう』という書物を著し、日本で地獄と極楽浄土を知らしめた。

様々な経典や論の中から往生の要点を編集し、極楽浄土の素晴らしさや往生浄土の方法を説いた。それとともに、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天から成る六道という世界の様子が詳しく説かれ、日本人の死後世界観に大きな影響を与えた。書物全体から見ると地獄に関する記述はわずかだが、源信が最も力を注いだのはまるで地獄を見てきたかのようなり



アルな描写であり、読む者の心を惹きつけて驚かせた。その後、ベストセラーとして宗派や階級を超えて読み継がれ、文学や美術にも多大な影響を与えた。本書の表紙に使用した絵は、『往生要集』に挿し絵を入れたもので江戸時代に流行した。『和字絵入往生要集』と呼ばれている。

仏教が説く「六道」とは、生前の行いの良し悪しによって生死を繰り返すという6つの迷いの世界のことだ。地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天の世界を生まれ変わり、死に変わり続けることを「六道輪廻」という。なかでも特に悪業を重ねた人間が生まれる世界が「地獄」だとされる。「地下にある牢獄」を意味する古代インドのサンスクリット語「naraka（ナラカ）」が語源で、「那落迦」「奈落」

B2 ▼ 黒縄地獄 こくじやう

殺生の他、盗みをはたらいた（偷盗ちゆうとう）人が墮ちる。罪人は熱い鉄板の上に寝かされ、大工道具で身体に線を引かれ、熱い鉄の斧やのこぎりで切り刻まれる。または、重たい鉄の塊を背負って熱い縄の上を渡らせ、鉄の窯に落とされ煮られる。



B4 ▼ 叫喚地獄 きやうかん

殺生・偷盗せつしょう ちゆうとう・邪淫じやいんの他、酒におぼれる飲酒の罪を犯した人が墮ちる。単に酒を飲むことではなく、悪事を働いたり他人に酒を飲ませて悪事を仕向けることである。熱いフライパンで焼かれたり、口の中に熱い銅を流し込まれる。





B7 ▼ だいしょうねつ 大焦熱地獄

ぜっしょう ちゅうとう じゃいん おんじゅ もうご じゃけん
殺生・偷盗・邪淫・飲酒・妄語・邪見

の他、「戒律を守って生活をしている
尼僧」を凌辱した人が墮ちる。

炎の刀で身体を削がれ、熱鉄をかけら
れる。あたり一面には罪人たちの泣き
叫ぶ声が響き渡る。

B5 ▼ だいきょうかん 大叫喚地獄

ぜっしょう ちゅうとう じゃいん おんじゅ
殺生・偷盗・邪淫・飲酒の他、人に嘘

をついた（妄語）人、つまり嘘つきが
墮ちる。

柱に縛られた罪人の舌を引き出して杭
打ちにしたり、目玉をくり抜かれる。



鬼の傷

「妄語第一火 尚能燒大海
況燒妄語人 如燒草木薪」
（「嘘の炎は激しく燃える。
大海さえも焼き尽くす。
だから嘘つき本人は草木や
薪ほどよく燃える。」）

と音写する。地獄はひとつの世界ではな
く、熱地獄・寒地獄・孤独地獄がある
とされる。熱地獄は八大地獄とも呼ば
れ、上から下へ8つの階層に分かれてい
る。上から等活地獄、黒繩地獄、衆合地
獄、叫喚地獄、大叫喚地獄、焦熱地獄、
大焦熱地獄、阿鼻地獄（無間地獄ともい
う）、以上8つで構成されている。八大
地獄にはそれぞれ16の小地獄があり、合
わせると136の地獄があるとされている。

そんなとても恐ろしい
地獄は「実在する」
のか「しない」の
かという話はナ
ンセンスで、知
る術も無い。地
獄を含めた「六
道」という迷いの



世界のうち、地獄・餓鬼・畜生の3つを
「三悪道」という。「貪り」のため、いつ
までも「欲しい」「足りない」から抜け
出せない「餓鬼」。やられたらやり返す（倍
返しだ!）という怒りの世界が「畜生」。
そして「愚かさ」のため、なんでも他人
のせいにして、苦しむ必要のないことに
苦しみ続けなければならない無限ループ
の苦こそが「地獄」なの
だ。仏教は自己を
問うのが基本姿
勢。ともする
と、地獄とは
「ある」「ない」
で語るのでは
なく、「今まさに
自分が作り出して
いる」と受け取るべき世
界ではないだろうか。

語源

「阿鼻」とは、古代イン
ドのサンスクリット語
「Avici(アヴィーチ)」
の音写で、「無間」（間
断の無いこと）と訳す。
無間地獄とも呼ばれる。

B8 ▼ あび 阿鼻地獄

これまでの罪の他、父母や僧侶を殺し
たり、仏さまや仏教教団を破壊した人
が墮ちる。この地獄に到達するまでに
2000年も真っ逆さまに落ち続ける
という。

炎に満ち満ちた阿鼻城の中でこれまで
の苦しみの千倍つらい責め苦を受ける。



B6 ▼ しょうねつ 焦熱地獄

ぜっしょう ちゅうとう じゃいん おんじゅ もうご
殺生・偷盗・邪淫・飲酒・妄語の他、

仏教の教えに背いたり、間違った考え
方（邪見）の罪を犯した人が墮ちる。

灼熱の鉄棒で叩かれ肉団子のように潰
される。または、大きな鉄の串を頭か
らお尻まで通し、炙り焼きにされる。



地獄は他人事ではない。

地獄の窠の蓋も開く

お盆には地獄の釜の蓋も開くなんてことをよく言いますが、なにか気になつたら蓋を開けてでも聞かずにおれないなんて人もいるようで…

ご隠居いやですか？

おや、八つつあんじゃないか。

お上がりよ。

言われなくても、

上がらせていただきますやす、よつと。

なにかあつたかい？

ちよいと聞きてえんですけどね、

いや、もうすぐお盆じゃねえですか。

お盆には地獄の釜の蓋も開くって聞

いたんですけどね、

蓋が開いてご先祖さんが帰って来

るってのは、一体何しに帰ってくる

んすかね？

おいおい、待て待て。

それじゃあなにかい？

死んだらみんな地獄行きかい？

いやいや！おいら地獄には行きたく

ねえです！

あんな、お盆の由来つてのは「盂蘭

盆経」っていう経典なんだ。

その経典によると、地獄道のストー

リーじゃなくて、ひとつ上の世界の

餓鬼道つてこの話なんだよ。

だからお盆と地獄は全く関係ないつ

てこつたな。

へ〜！知らなかった！

さすが無駄に長生きしてねえや。

じゃあその由来の経典つてのを詳しく

教えてくださいよ！

…んん？ゆ、由来かい？…ああそう

そう、私はもちろん知っているが、

ちよいと用があつてね。

この先にいるお寺の住職さんに聞き

に行つたらいい。

なんだご隠居もしらねえのか。

じゃあ、ちよいと住職さんとこ行つ

てみよ！さいならー！！

参考文献

- 『註釈版聖典』本願寺出版社
- 『註釈版聖典七祖版』本願寺出版社
- 『季刊せいてん』本願寺出版社
- 水木しげる「水木少年とのんのんばあ地の獄めぐり」マガジンハウス
- 水木しげる「のんのんばあとオレ」ちくま文庫
- 『別冊太陽 日本のこころ62 地獄百景』平凡社
- 『地獄絵ワンダーランド』NHKプロモーション

協力

株式会社 水木プロダクション

愛知教育大学 藤果純教授

日本の民俗信仰の中で霊が家に向かってくるとされる7月1日は「盂蘭盆会（うらんぼんかい）」とも呼ばれ、

これについて『日本大百科全書』（小学館）では、次のように説明している。

この日は盆の魂祭りの始まりにあたり、精霊様が家々に向かつて出発するという考えから、地獄の窠の蓋のあく日と、おかしくよび始めたのであろう。

（五巻、六九六頁）

このことから、仏教行事としてのお盆と日本の民俗信仰が混同していったことがわかる。

DHARMA

親は子に迷い

法話 永岡龍乗



初

めて授かった長男。世の中でこんな可愛い子がいるだろうかと思いました。

テレビに出てくるどの赤ちゃんや子役よりも、ずっと我が子が可愛いと思っていました。

あれから33年。当時の息子の写真を見てびつくり。「あれ、普通だ」。夢中だったんだなあと思つてしまいました。

8月はお盆の季節です。伝説の由来は『盂蘭盆経』によります。お釈迦さま十大弟子のおひとり目連尊者が、お悟りの眼を通して今は亡き母の行方を見ると、こともあろうに餓鬼道に落ちていたのです。驚いた目連は母親に食べ物を持ちますが、ことごとく炎となって余計苦しみます。困り果てた目連はお釈迦さまに相談します。お釈迦さまは「罪の深い母であるから、7月15日^{*1}に、90日間の勉強を終えた多くの僧侶たちに、食べ物と臥具を供養しなさい」と教えられたのです。目連は教えの通り実行しますと、たちどころに母親は餓鬼道の苦しみから救われたということです。

なぜ目連の母は餓鬼道に落ちたのでしょうか。それは目連の母一人の問題ではありません。全ての親に共通する罪業ではないでしょうか。子どもに対する親の思いは大変深いものがあります。わが子可愛さのあまり、つい教育にも熱心になります。心を鬼にして叱るときもあれば、感情的に怒るときもあります。他の子よりも上に行つて欲しいと、我愛、我執にとらわれ、周

りが見えないのが子育ての現実ではないでしょうか。その事を「なんと親とは罪深い者、愚かな者」と切り捨ててではなく、私一人を育てる為に、餓鬼道の苦しみ覚悟で育てて下さったのだと、親の恩に思いを致すべきであります。目連が悟りを開いた時、まずそのことに気が付いたのであります。

さらにお釈迦さまが教えられた『衆僧供養』という事です。多くの僧に食べ物を持ち寄るという事は、自分の子どものことばかり考えている親に、時には他の人の子どもにも目をやること、個人の幸せばかり考えないで、少しは社会の幸せも思うようにと教えられたのであります。そして臥具を与えよという事は、臥具とは安らぎの象徴であります。社会的に苦悩を背負っている人々に、安らぎの言葉と、苦悩を分かち合い寄り添いの実践を進めたものでありましょう。

目連の母親が救われたとき、目連は天にも地にも躍り上がるばかり喜んだといわれます。そのことが起源になって盆踊りとなったと伝えられます。

ともすればお盆は、お墓や納骨堂にお参りして終わってしまいがちです。親や祖先の恩に思いを馳せ、自分中心で生きてきた私の過ちを、気付かせてくれる行事こそお盆であったと受け止めるべきではないでしょうか。

*1 旧暦。自恣の日。安居という僧侶の勉強・修行期間の最終日で、僧侶が反省や懺悔をする。

地獄 經由 極樂 行き

「死後の苦しみの世界」は仏教以外にも世界各国に存在するが、今号で紹介した「地獄」は仏教の教えにあり、原点はインドにあるとされている。

仏教の八大地獄の苦しみには、「身体を切り刻まれる」「熱湯の煮えたぎる釜に入れられる」「猛火によって苦しめられる」等がよく知られているが、どんな人が地獄に落ちるとされるのか。地獄に落ちる基準の「悪」とは、時代で変わる法律や道徳上の「悪」ではない。仏教の5つの戒律を破ることをいう。

- 「不殺生戒」 〓 生き物を殺さない
- 「不倫盗戒」 〓 盗みをしない
- 「不邪淫戒」 〓 享楽に溺れない
- 「不妄語戒」 〓 嘘をつかない
- 「不飲酒戒」 〓 酒を飲まない

この戒律を見て、私は地獄へは落ちないと胸を張って言える方が何人いるだろうか。ちなみに「不殺生戒」は肉を食べることも、人間にとつての害虫と呼ばれる虫を殺すことも不可である。私を含め、現代を生きている大多数の人が地獄へ行く可能性がある。

かく言う私も間違いなく地獄行きであろう。仏教の基準でいえば、法律上の罪を犯すとか関係なく、みんな一緒に地獄落ちである。これだけ科学が発達した現代において、仏教の思想には時々非科学的な事が説かれている様に感じる方もいることだろう。しかし、仏教を理解するためには、古代インドの人たちの生活や思想がわからないといけない。古代インド世界の価値観の中で組み立てられた仏教思想を、ただ非科学的だとして

否定するだけでは仏教教義は理解出来ない。

現代科学でも私たちが知っている原子や分子などの通常の物質は、宇宙に存在する全物質、エネルギーのわずか5%にしか過ぎず、残りの95%はよくわかっていない。私個人で言えば、わかっているはずの5%すらよくわかっていない。そんな95%解らない世界で暮らす我々が、科学は絶対で宗教は非科学的だという価値観を持っている事に違和感を覚えるのは私だけだろうか。

今を生きる我々は、昔の人と比べて全てわかっていている気になっているが、1000年後の人類から見たら古代インドの人々と現代人では大差はない。毎日のように肉を食べ、お酒を楽しむ地獄行き確定の私。では、仏

さまは私の様な人々を見放してしまふのだろうか。

いやそうではない、こんな生活しや出来ない私であったと気づき、慚愧する中で、だれに対しても平等で決して見捨てず、手を差しのべてくれる教えが仏教であるのだ。仏教は「気づき」の世界。こう考えると「地獄」とは仏教の教えに出合うための「きっかけ」なのだろうと思う。

そんな全てのものをすくいとる仏教の懐の深さは、私にとって実に心地良い。





ZIGOKU

ジゴク

私たちは北海道南空知地区を拠点として活動する浄土真宗本願寺派寺院の団体「空知南組」、通称「くうなん」です。

Connect（コネクト）という誌名は、くうなんのスローガンである「つたわれつながれ」が由来となっています。

Editors TAKUYA KANNO
HIDETOMO SUGITA
TATSUTO NAGAOKA
Designer HIROYUKI YAMAZAKI